

地方都市郊外に位置し特殊な人口動態を示す地方農村地域の現状と今後の課題

三重県立松阪高等学校 郷土地理部

1.研究目的・玉城町の概況等

三重県度会郡玉城町は、三重県中南部の中心都市である伊勢市・松阪市の中間に（伊勢市には隣接）位置する農村地域である。同町は、人口減が目立つ三重県中南部にありながら、2015 年まで人口増が続いてきた。その後、微減傾向に転じたものの、2019 年時点でも若干の社会増が見られ、同年の年少人口割合は三重県全市町で 3 番目に高いなど、特異な人口動態を示している。図2は、同町と近隣の度会町・伊勢市の人口ピラミッド(R2年)である。3市町を比較すると、玉城町は生産年齢人口および義務教育年齢期の人口比率が、突出して高いことが確認できる。

このような同町の特異性について、フィールドワーク、国勢調査・自治体調査等の分析を通じ、その要因や、現在人口減少の局面に転じつつある同町の、今後の振興政策の方向性を探った。

市町別人口増減率(平成22年～27年)



玉城町基本情報
(県内29市町順位)

面積	人口	人口密度
40.9 km ²	15041 人	366 人
25/29 位	19/29 位	13/29 位

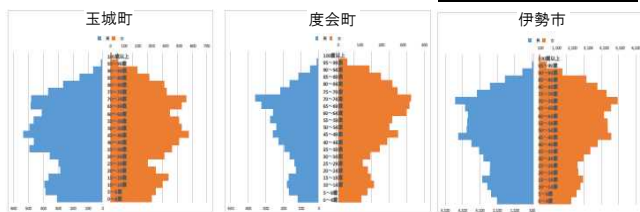


図2

2.玉城町の地域区分の考え方

玉城町は1955～56年に田丸町と近隣3村が合併し誕生した。現在も旧町村の区分が4つの小学校区として残っている。旧田丸町は、江戸時代には田丸藩の城下町で、明治22年に既に町制施行されており、歴史的には都市的機能を備え一定の中心性を持った地域であったと考えられる。本研究では、旧田丸町の城下町と周辺地域(おむね図2の赤丸で囲まれた区域)を玉城町中心地域として捉えることとする。

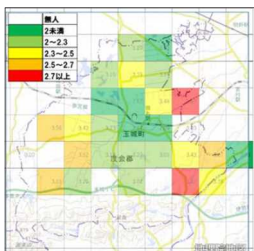
図3玉城町全図・中心地域



3.玉城町中心地域の人口動態

玉城町の字別人口と世帯数より、世帯構成人数のメッシュマップを作成した。図4から、町中心地域は、他の地域に比べ、世帯構成人数が小さい傾向が見られる。これはアパート等の増加により単身世帯が多い事、高齢化の進展により高齢者単身世帯が多い事によると考えられる。このことから、町中心部が周辺地域と異なる特色を持つ地域である事が推測できる。

図4 地域別世帯人数



6.考察 ～今後の地域振興施策に関わって～

玉城町の昼夜間人口比率は、国勢調査より2000年に97.7、2015年には99.8と上昇しており、三重県内の町では1位である。この間、玉城町では美和ロック・京セラ等の工場拡張による雇用拡大が進んでおり、いわば職住近接型の人口増加が進展したと考えられる。このことより、同町は単に伊勢市の郊外地域だけではない中心性を持った地域として発展してきたと考えられる。同町の中心地域の田丸地区は、公共施設などが集中するだけでなく、続・日本百名城に選定された田丸城がほぼ町内全域から望みえる台地上にそびえ、城内に町内唯一の中学校があつてほとんどの町民が通学した経験を持つなど、実質的かつ精神的な中心地区となっている。同町は、伊勢市や松阪市郊外という等質地域ではなく、一定のまとまりを持った独立性を維持し、結節地域として機能していると考えられる。

また同町の新たな小規模の宅地造成は町中心地域の縁辺部を中心に進行しており、一方、中心地域の中の旧城下町では、H29年の水害被災地域を中心に空き屋・空き地が増加するなど、空洞化が進行しつつある。この状況は、半径500m～1km程度の狭い地域の範囲内で起こっており、人口増と空洞化の対応を一体的に行うことが可能ではないかと考える。具体的には、旧城下町の空き地・空き屋を、開発可能な資産と捉え、周辺の歴史的景観とマッチした高級感のあるリフォーム・立て替え等を行う、商業店舗等を誘致するなど、一種のジェントリフィケーションを行い、旺盛な住宅需要に対応してはどうだろうか。町中心部の機能性をより高め、玉城町全体のコンパクトシティ化を促進することを提案したい。



美和ロックの主力工場の同社玉城工場。同社の生産量の9割を占める(昨年8月)



町のほとんど全域から望みえることのできる田丸城(玉城町HPより)

参考文献

玉城町空家等対策計画、平成28年都市計画基本調査、玉城町人口ビジョン、玉城町まち・ひと・しごと創生に関するアンケート調査、国土地理院 電子地形図

4.空洞化と市街地拡大が進展する中心地域

玉城町は、社会的人口増が顕著で、住居を中心とした新築建物の件数が多く、特に町内中心部の田丸地区に集中する傾向が見られる。(図5)一方、空き屋も増加傾向にあり、町担当者からの聞き取り調査では、今後の大きな課題と捉えていることが分かった。空き屋についても、同様に中心部田丸地区に集中する傾向がみられる。(図6)

図7・図8は、空き屋と新築建物の分布を、中心地域に限って拡大表示したものである。この図を基に現地調査を行なった結果、半径500m程度の狭い地域の中で、田丸駅を中心に空き屋や空き地が目立ち、空洞化の進展が推測される旧城下町地域と、旧城下町と農地との境界部で小規模の住宅団地の造成が目立つ地域に二分される状況が確認できた。また町役場担当者との聞き取りから、H29年の水害により浸水被害の大きかった旧城下町地域で、図6以上に、空き屋や空き地増加していることを知り、現地調査でも確認できた。

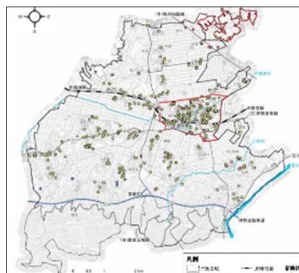


図5 新築建物位置(H22～27年)

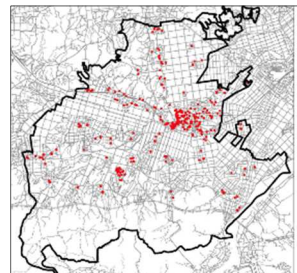
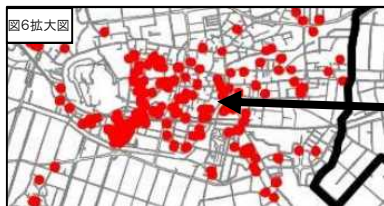
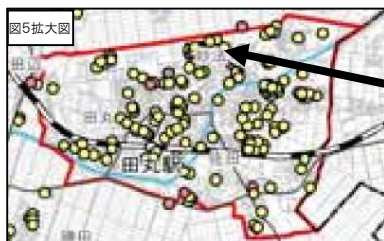


図6 空き屋位置(H29年)



周辺部の住宅団地



中心部の空き家